令和7年度学校評価の分析と今後の取組について（学校評価書）

玉野市立荘内中学校

玉野市立荘内中学校の令和7年度学校評価の結果に基づき、現状の分析（自己評価）と学校運営協議会からの（外部評価）を取りまとめ、次年度に向けた改善案を考案しました。

荘内中学校は全体として「主体的・対話的で深い学び」や「ICT 活用による学び」、「生徒主体の活動」において非常に高い評価を得ており、学校と保護者の信頼関係も強いようです。一方で、家庭学習の定着やメディアコントロール力などに伸び代が見られます。

---

1. 学校評価結果の分析

【強み】生徒の主体性と学校の風土

- 主体的な活動の充実: 生徒が学校づくりを「自分事」と捉え、アイデアを提案・実行する姿勢が顕著です。
- 良好な信頼関係: 教員による「ほめて育てる」指導方針が保護者から高く評価されており、SNS や HP を活用した情報発信も成功しています。
- 探究活動の推進: 未来を生きる力を養うための探究学習が軌道に乗っており、生徒の自己評価も高くなっています。

【課題】家庭との連携と生活習慣

- 家庭学習の定着不足: 保護者の視点から、家庭での学習習慣や「得点力（学力）」の向上に対して不安が残っています。
- ICT 活用のギャップ: 学校での ICT 活用が進む一方で、保護者がその具体的なイメージや効果を十分に把握できていない傾向があります。
- 生活習慣とメディア制御: TPO に応じた行動や、家庭でのスマホ・ゲーム等のメディアコントロールに課題が指摘されています。

---

2. 次年度に向けた具体的な改善提案

① 「家庭学習の可視化」と「質」の転換

単に家庭学習時間を増やすのではなく、学校の授業と連動した家庭学習課題の質の向上を図り、各生徒が自分の状況を可視化できる取組を検討する。。

- 改善策:提出課題の優れた実例を、個人情報を伏せた形で各教科で積極的に紹介する。
- 狙い: 「何をすればよいか分からない」という不安を解消し、学習の「質」の基準を提示する。

② ICT 活用の「見える化」と「家庭教育」の推進

ICT は学校内だけで完結させず、家庭での学びを支えるツールとしての理解を「まなトレ」等で深める。

- 改善策: 授業参観時に ICT をフル活用した授業を公開する、あるいは保護者向けに「デジタル時代の学習の進め方」や「家庭でのルールづくり」等を広報する。
- 狙い: 課題となっているメディアコントロールへの意識を高めます。

③「TPO に応じた行動」の定着(非認知能力の育成)

主体性が高まっている今だからこそ、自由とセットになる「規律(マナー)」の再定義が必要です。

- 改善策: 生徒会が中心となり「荘内中 TPO ガイドライン」を自分たちで策定するプロジェクトを立ち上げる。(例)
- 狙い: 大人からの押し付けではなく、自分たちが「かっこいい中学生」であるための基準を自分たちで決めることで、規範意識の内面化を図ります。

④ 学力向上のための「データ活用」と「フィードバック」

- 改善策: 単元末テストや学力診断テストの結果だけでなく、日々の小テストや探究活動のプロセスを「e ポートフォリオ」等で生徒が確認できる仕組みを強化する。また、努力の過程を懇談等で保護者と共有する。
- 狙い: 点数という「結果」だけでなく、そこに至る「努力の過程」を共有することで、家庭での前向きな声掛けを促します。

---

3. まとめ:次年度の重点目標(案)

次年度は、これまでの「生徒の主体性」という土台の上に、「学校と家庭の学びの同期(シンクロ)」をテーマに掲げるのが効果的です。

重点項目	具体的なアクション	期待される成果
学習の接続	予習・授業・復習の連携強化	家庭学習の定着と学力の向上
ICT の共有	活用事例の積極的な発信	保護者の理解とメディア管理の両立
規範の共創	生徒主体のマナーづくり	TPO に応じた行動の自律的定着